

の3階に配置している。大学院の教育指導は主として「双方向型・学習参加型」にて行っている。その指導環境をハード的に確保するために、特にA棟では教員研究室に大学院生の研究スペースを取り込み、時間に拘束されることなく担当教員との積極的なコミュニケーションを図っている。また大学院生が研究成果をプレゼンする際のOHC、プロジェクター等々視聴覚機器・AV機器も一部老朽化があるものの、現在のところ有効的に活用されている。さらに、前述したとおり平成20年度戦略的大学連携支援事業として選定された「国公立大コンソーシアム・福岡」についての具体的な展開が図れる中、その推進にあたりハード的な側面支援を検討している。

このように、本学の施設・設備の整備は、目標の達成に向けて適切に進行中であると判断される。

(2) 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

教育の用に供する情報処理機器などの配備状況については、**本章 16. (三) 情報処理センター**の項で記述する。

(二) 先端的な設備・装置

(1) 先端的な教育研究や基礎的研究への装備面への整備の適切性

先端的な教育研究としては、平成16年度「次世代マイクロ／ナノ金型開発センター」平成17年度「ハイテク・リサーチ・センター」（文部科学省私立大学学術高度化推進事業産学連携推進事業）が採択され、各々の研究課題に添った施設環境を整備した。

前者は、本部棟1階の旧レストラン（食堂）の一角に24時間定温（恒温）環境を維持する実験室と高精密機器を有する測定室及び計測室を配置、設備としては走査型共焦点レーザー顕微鏡、走査型プローブ顕微鏡、精密機器用圧縮空気供給装置、ドラフトチャンバー等を導入した。後者は、B棟6階の総合研究機構所のスペースに環境計測室を設置、設備としては顕微レーザーラマン分光装置、MALDI-TOF 質量分析装置、高速液体クロマトグラフ／質量分析計、DNAシーケンサー等を導入した。

なお研究成果等の詳細および先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等の連携関係の適切性については、**本章 16.**

(一) 総合研究機構で記述する。

(三) 夜間大学院などの施設・設備等

(イ) 夜間に教育研究指導を行う大学院における、施設・設備の利用やサービス提供についての配慮の適切性

夜間での教育研究指導と施設・設備に利用サービスについては、一部、大学院の施設設備の項で前述しているが、研究室の他に開講時間18:30～20:00にあわせて図書館及び情報処理センターを開放している。また、エレクトロニクス研究所・情報科学研究所・環境科学研究所等、附置研究所の利用は申し出があれば利用時間の延長が可能となっている。

(四) キャンパス・アメニティ等

(イ) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立

第Ⅱ期施設整備工事の完了により、学生が真に教育研究に取り組む環境と「ゆとりと安らぎ」を兼ね備えたアメニティスペースが確保された。具体的には、自習室として既存の総合学習センター（α棟）3階（400㎡）に加え、本部棟1階の一部を自習室に用途変更（500㎡）さらに各棟に自習室を兼ねるリフレッシュコーナーを設置した。併せて「学生のコミ